

あららがま
強い心で
生きてゆく

あららがまは、宮古島の言葉で「今に
見ていろ」という、自分を励ます意味
があります。

イラブチャー
釣つておじいの

得意顔
とくいがお

「ブダイ」のことを宮古島の方言で、
イラブチャーと言います。

うずまきパン
畑でみんなの
楽しいおやつ

宮古島の島民に愛され、食べ継がれ
ているうずまき状の菓子パン。

遠足は

たこ公園だ

来間島

くりまおおはし　わたりまじま
来間大橋を渡つてすぐ左手にある、
大きなたこのオブジェのある公園。



オカガニの

じゅんさ こうつうせいり
ために巡査も交通整理

じゅんさ

こうつうせいり

いけまじま せいそく
池間島に生息するオカガニは、毎年五月
から十月の満月の夜に、産卵のため陸地
から道路を渡つて浜辺に向かいます。
オカガニが安全に道路を渡れるように、
巡査も交通整理をします。

かりまた 狩俣の

こうばいてん
公売店でアイス買う

狩俣は、宮古島の北西にある集落。
狩俣公売店で売つているアイスケーキ
とアイスボンボンは、昔から変わらな
い味でおいしいです。

キビ倒し

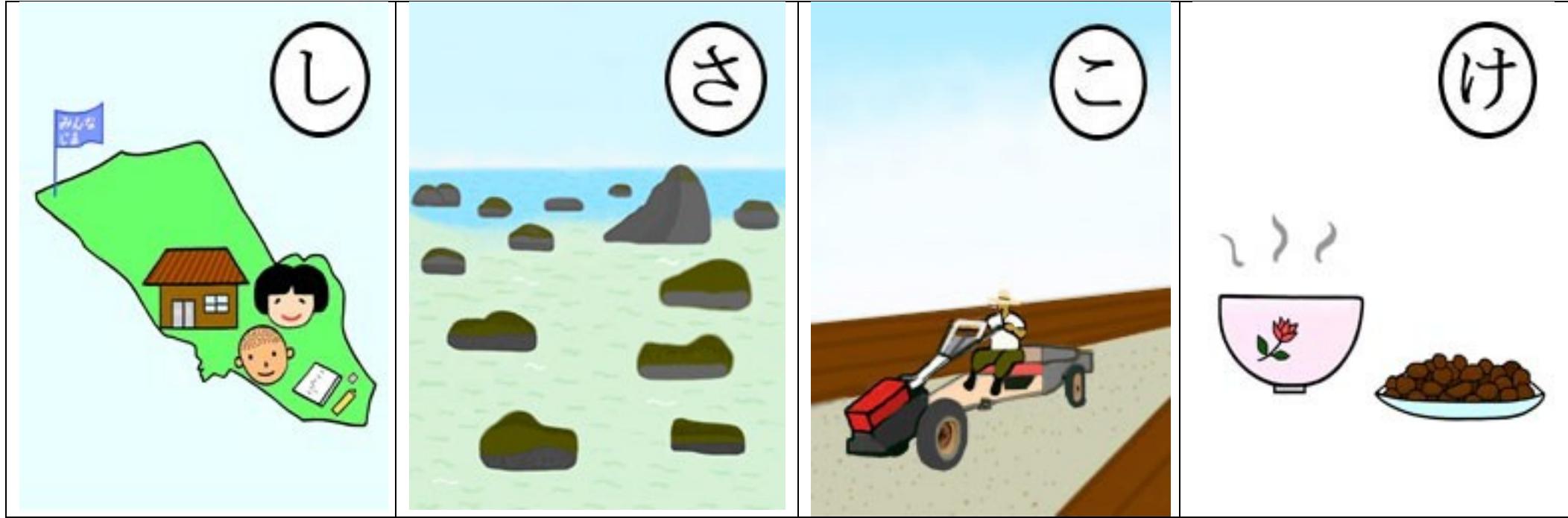
たお
力マを持つ手も

しごれてる

キビ倒しは、とても大変な作業です。
長時間作業をしていると、肩や腰も
パンパンにはってきます。

クイチャーヤーを 踊り疲れた ひたにに雨つぶ

クイチャーヤーは、雨乞いのための踊りです。
宮古島には川がなく、長い間干ばつに苦し
められてきた人々は、クイチャーヤーを踊つて
神様が雨を降らせて下さるよう祈りました。



<p>小中学校</p> <p>昔はあつたよ 水納島</p> <p>みんなじま</p> <p>水納島には以前多くの人が住んでいて、明治三十三年には多良間小学校の分教場が開校しました。昭和三二年に水納小学校となりましたが、昭和五三年に廃校となりました。</p>	<p>伊良部島にある佐和田の浜には、一七七一年の「明和の大津波」の時に運ばれてきた大きな岩が、たくさん残っています。</p> <p>佐和田の浜</p> <p>さわだ つなみ あと</p> <p>津波の後の置きみやげ</p>	<p>パリは、宮古島の方言で「畑」のことです。フランスのパリではありません。</p> <p>耕運機に乗つておじいはパリへ行く</p> <p>こううんき</p>	<p>黒砂糖は、宮古島ではお茶菓子として昔からよく食べられています。黒砂糖には、カリウムやカルシウムなどのミネラルがたっぷり含まれているので、島のおじいやおばあは、とても元気です。</p> <p>健康の秘訣は茶の友 黒砂糖</p> <p>ひけつ くろざとう</p>
---	---	--	---

す



砂の丘

あせ
のぼ
汗かき登ると

砂山ビーチ

砂でおおわれた勾配の急な丘を登ると
眼下にエメラルドグリーンの美しい
砂山ビーチが広がります。

せ



せんぶうき
扇風機

ブンブンうなる

ねつたいや
熱帶夜

宮古島の夏の夜は、扇風機の音が
一晩中なり響きます。

ソーキ汁

じる

宮古の味が

つまつてる

ソーキは、骨付きばら肉のことです。
ソーキ汁は豚肉からとったスープに、
コンブやトウガルを入れた宮古島の
郷土料理です。

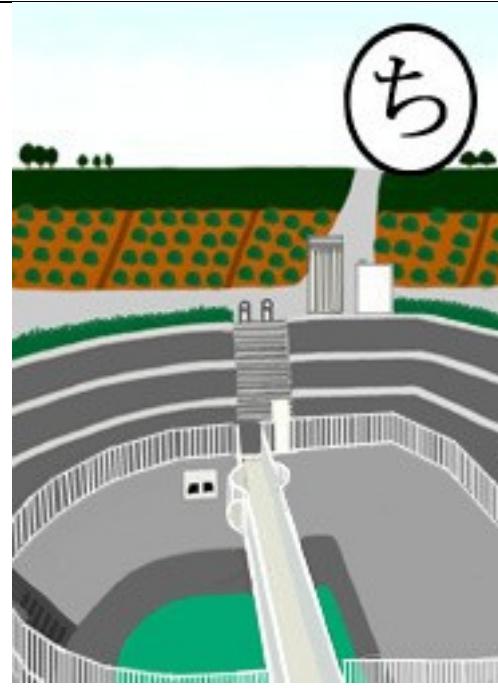
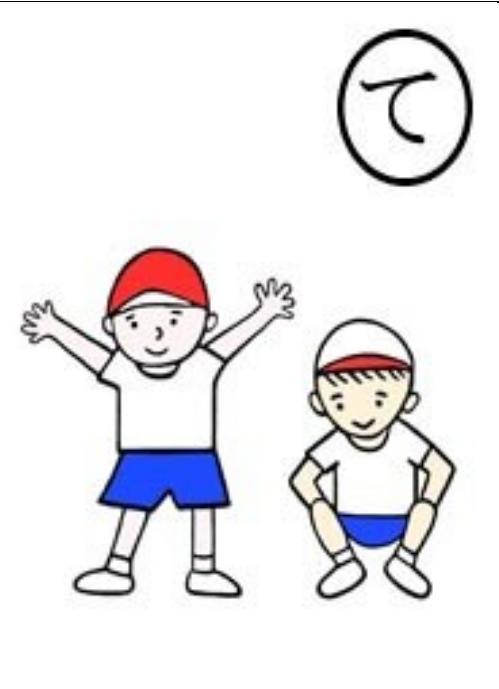
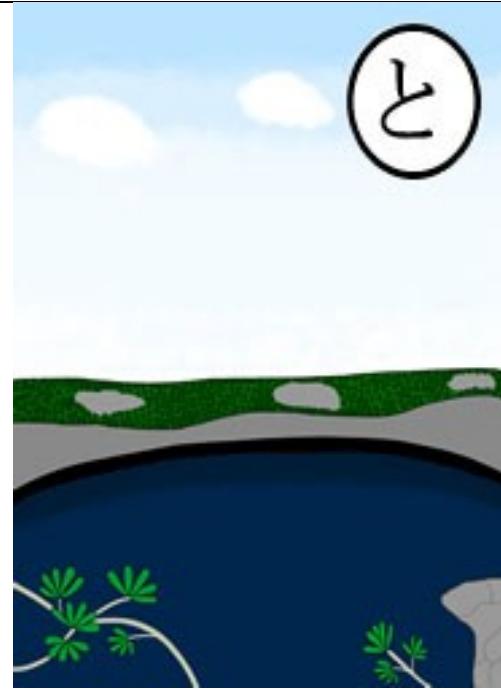


た



「たんでいがうたんでい」
保育所で子どもが
言っていた

「たんでいがうたんでい」は、宮古島の方言で「ありがとうございます」の意味です。



下地島にある「通り池」は、海底で
海とつながっています。淡水と海水
の混じった濃い紺色が特徴です。

しもじじま
ともじ
通り池
とい
いけ
神秘ただよう海の色
しんぴ
かいとう

宮古島の方言で、「テイー」は「手」、
「パズ」は「足」のことです。

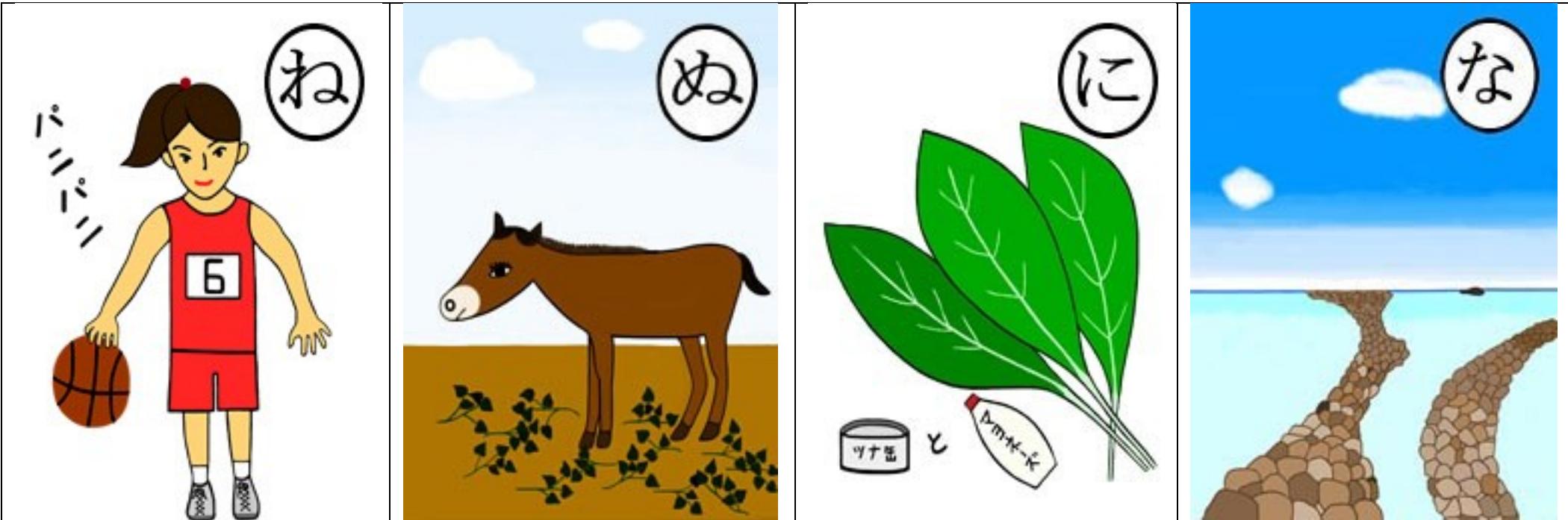
テイーを伸ばし
パズをまげて
ラジオ体操

宮古島には、小さな砂浜がたくさん
あります。日中はカニやヤドカリ
などの小動物が、にぎやかに活動
しています。

月夜の浜
さざ波聞いて
ヤドカリ眠る

平成十二年（二〇〇〇年）に完成した
地下ダムにより、宮古島の農業は
飛躍的に発展しました。
このダムは、世界で初めての本格的な
地下ダムです。

ちか
地下ダムで
煙も潤う宮古島
うるお



先祖の生きた 知恵のあと

魚垣漁

せんぞ

ながきりょう
魚垣漁は、昔下地島で行われていた漁で、
遠浅の干潟に石を積み上げておき、満潮時に
まよひ込んだ魚を干潮時につかまえる漁です。

ニガナにね ツナ・マヨ加えて 島の味

ニガナは、宮古島の方言で「ンギヤナ」と
言い、島のいたる所に自生しています。
文字通り苦い野菜ですが、千切りにした
ニガナにツナを加え、マヨネーズと酢で
和えるとおいしいです。

ぬ～まの子

長いまつげが

かわいいね

ぬ～まは、宮古島の方言で「馬」
のことです。

ねえねえは
スポーツ万能
ぱニパニだ

ばんのう

ねえねえは、宮古島の方言で
「おねえさん」。
ぱニパニは、「元気はつらつ」です。

「のうしりや」

か
交わす挨拶

こうせついちば
あいさつ

公設市場

宮古島の方言で、「のうしりや」
は「どうですか？」と言う、挨拶の
言葉です。



「ふあいみくる」

あ
母ちゃんの揚げた
サタパンбин

「ふあいみくる」は「食べてみて」、
サタパンбинは「砂糖てんぶら」の
ことで、小麦粉と卵と砂糖で作る
揚げ菓子です。

羽広げ

サシバの群れが
輪をえがく

む

毎年多くのサシバの群れが、伊良部島に
飛来します。サシバは遠くまで飛ぶため、
上昇気流の筒の中を円をえがきながら上空へ
登ります。その様子を鷹柱と言います。

ひさまつ
久松は

ごゆうし
りつぱな五勇士 育んだ

はぐく

日露戦争（一九〇五年）の時、宮古島近海を
北上していたロシア艦隊の情報を日本連合
艦隊に知らせるため、五人の久松出身の漁師
が十五時間サバニをこぎ、通信施設のあった
石垣島まで行きました。

み



ま



ほ



へ



平安名崎 へんなざき

東と西に
二つある

宮古島には岬みさきが一つあります。
城辺にある東平安名崎と、狩俣にある
西平安名崎です。

方言は

宮古の宝
たから

大切に

宮古島は人口五万人ほどの小さな島
ですが、各集落しゆうらくどくじごとに独自の方言があり、豊かな言葉の文化があります。

マース煮は
に

おばあが一番
じょうず

上手だよ

マースは、宮古島の方言で「塩」にしえのことです。海水を使って魚の煮付につけけを作る料理です。

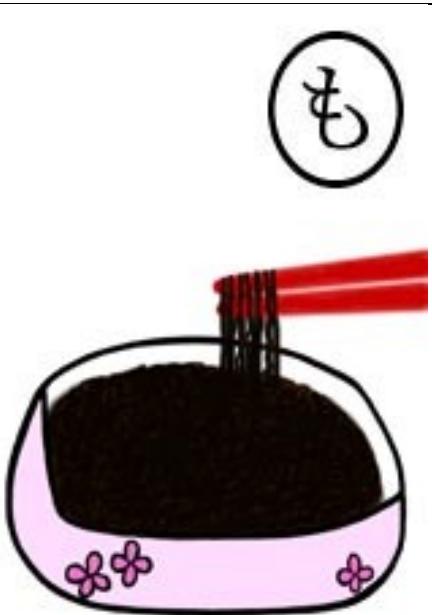
水かけて
「あいじや」と言えば
宮古人

水がかかった時、とつさに
「あいじや」と言うのは、宮古島
しゅうしんしゃ
出身者です。

や



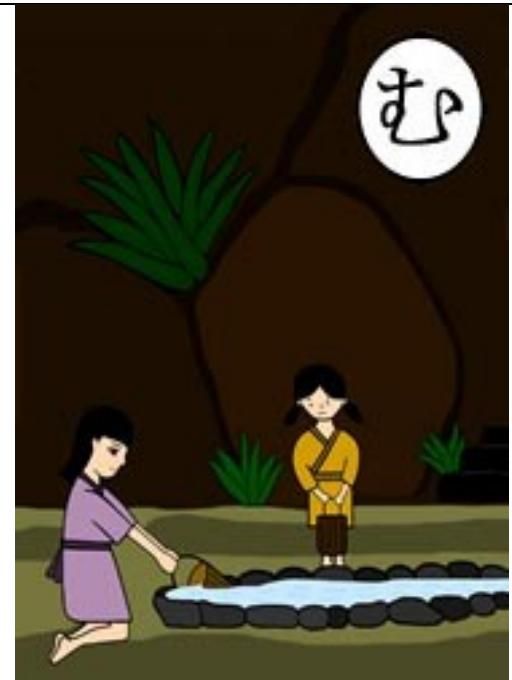
も



め



む



ムイガーの だんがい

断崖おりて 水をくむ

昔、川のない宮古島では、ガードと呼ばれる湧き水の出る場所で水をくんでいました。城辺にあるムイガーは、六十メートルも断崖を下りた所にあり、当時の過酷な宮古島の生活を知ることができます。

めちやうまい にがみ

苦味のきいた ゴーラチャンプル

宮古島の方言で、ニガウリを「ゴーラ」と言います。

もづくはね

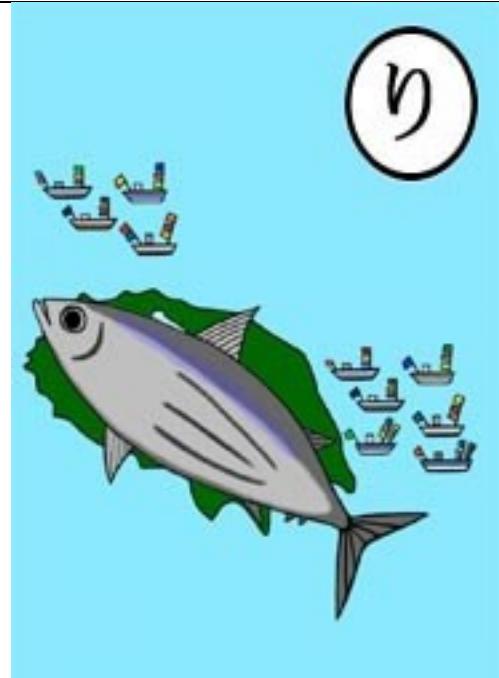
宮古でスヌイと 言うんだよ

宮古島では、モズクのことを「スヌイ」と言います。

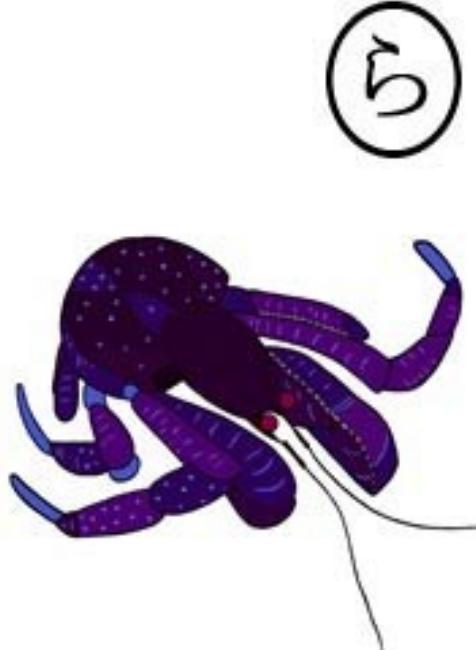
八重干瀬を守ろう や び じ

日本一のサンゴ礁 しおう

池間島の北にある、日本で一番大きなサンゴ礁群です。南北約十七km、東西約六・五kmの広さの中に、百以上のサンゴ礁があります。



り



ら



よ



ゆ

ゆむぬがね てんじょううら 天井裏で 運動会

ゆむぬは、宮古島の方言で「ねずみ」のことです。

ヨモギの葉

ヤギ汁に入れて
くさみ取る

ヤギ汁のくさみを取るために、宮古島ではヨモギの葉を入れます。

ラツキーだ
でつかいマクガン

つか
捕まえた

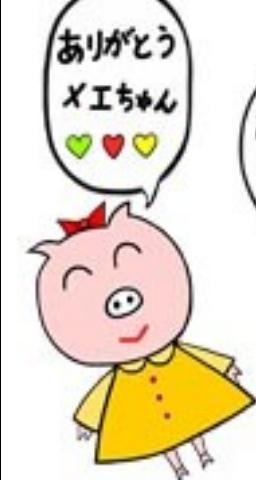
マクガンは、宮古島の方言で
「ヤシガニ」のことです。

りょうし 漁師の島 カツオで栄えた

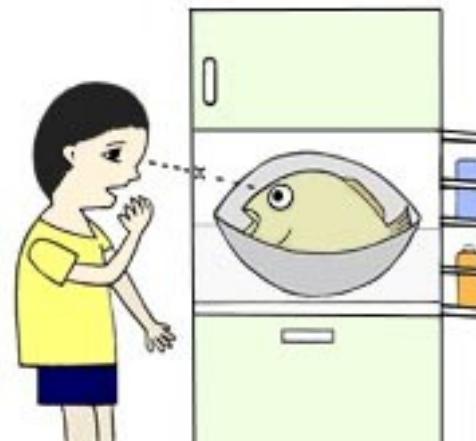
いけまじま
池間島

池間島のカツオ漁は、一九〇六年に始まりました。最盛期の一九五〇年には、島に八つのカツオ節工場がありました。

る



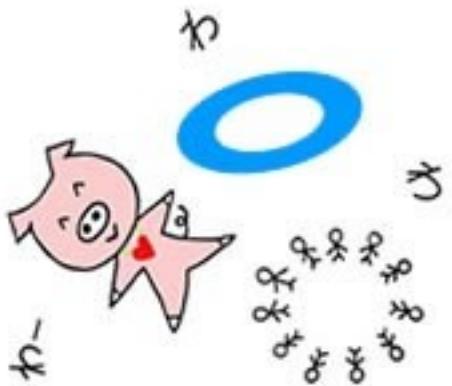
れ



ろ



わ



ルール守り ゆずり合いおうね まも

島の生活

みんなが、ゆずり合いの心を持つて
宮古島を良い島にしましょう。

れいぞうこ
冷蔵庫

釣つたタマンと

目が合つた

さんご礁に囲まれた宮古島では、魚がよく
釣れます。冷蔵庫の中にも、大きな魚が
丸ごと入っています。タマンは、「
ハマフエフキダイ」のことです。

ロウソクを

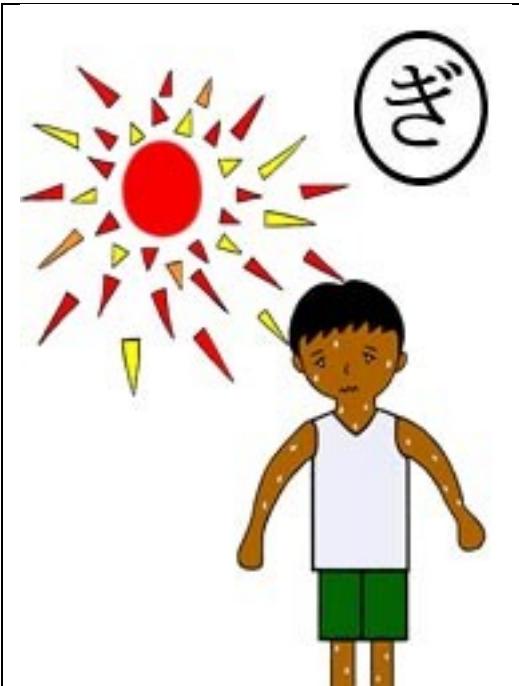
立てて台風の
朝を待つ

毎年3～5つの台風が、宮古島を直撃
します。

大型台風の時は停電になるので、ロウソク
で明かりをともします。

「わー」と言えば
ブタのことだよ
宮古では

宮古島の方言で、「わー」はブタのことです。



かくした場所は
大神島か？

おおがみじま
大神島には、海賊キヤプテン・キッド
が財宝を隠したと言う伝説があります。

「んみやうち」と
客をむかえる

宮古島

宮古島の方言で、「んみやうち」は
「いらっしゃい」と言う意味です。

がんぐりゆまた
夜は一人で
歩かない

「がんぐりゆまた」は、宮古島市内にある
路地で、夜になると片足ピンザ（ヤギの
化け物）が現われて、子どもたちを
おどろかすと言い伝えられています。

ギラギラと

焼きつくティダが
肌を刺す

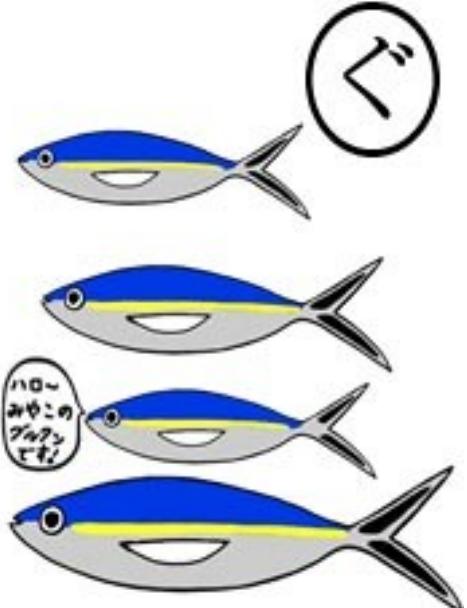
ティダは、宮古島の方言で「太陽」の
ことです。宮古島の真夏の太陽の熱は、
肌を真っ黒に焦がします。

グルクンは

ぎょうじ

宮古の行事に
かかせぬ魚

グルクンはタカサゴ科の「魚」です。
宮古島ではから揚げ^あにしたグルクン
が、様々な料理に登場します。



げ



ゴキブリは
ビーヤと言うんだ

いらぶじま
伊良部島

宮古島で、「ゴキブリ」のことを「くーむ
つ」とか、「くーむや」と言いますが、
伊良部島では「ビーヤ」と言います。

かばすくとは、宮古島の方言で「いい香り」
と言う意味です。旧暦の十二月八日、沖縄で
は子どもの健康を願い、月桃の葉で包んで蒸
したもの菓子（ムーチー）を作ります。月桃
の葉には、独特の香りがあるので、ムーチー
もいい香りになります。

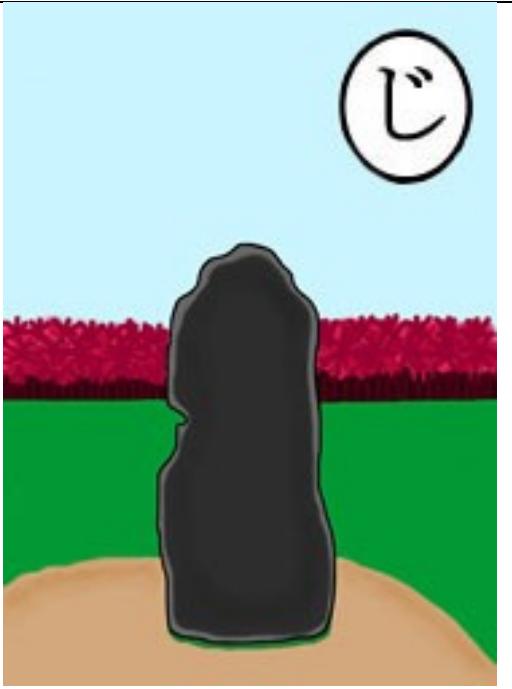
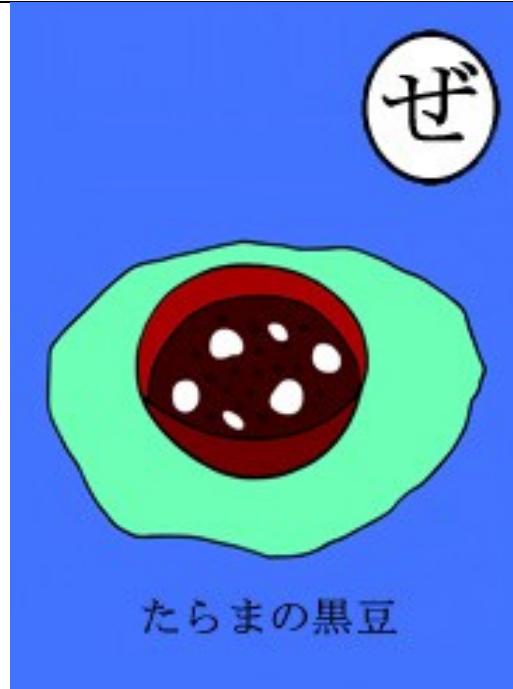
月桃の
つつ

葉で包まれた かばすくもち



ザーザーと
朝から大雨
やなわーつく

やなわーつくとは、宮古島の方言で、
「いやな天氣」という意味です。



人頭稅石

かこくな島の歴史見る

れきし

宮古島の荷川取に、高さ1・43mの石が
保存されています。この石は人頭税石と呼
ばれ、一六三七年から一九〇三年までの
二六六年間、宮古島の島民が琉球政府に納
めていた、税金の歴史を伝えるものです。

ずつこけた
今日もばずかす
父ちゃんのジョーク

ぱずかすは、宮古島の方言で
「恥ずかしい」という意味です。

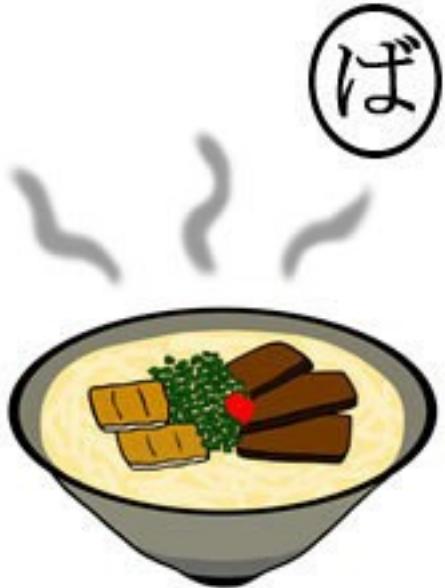
ぜんざいは
たらま
くろまめ
多良間の黒豆
おいしいね

多良間島では黒豆を栽培しています。
その黒豆で作るぜんざいは、とても
美味しいです。

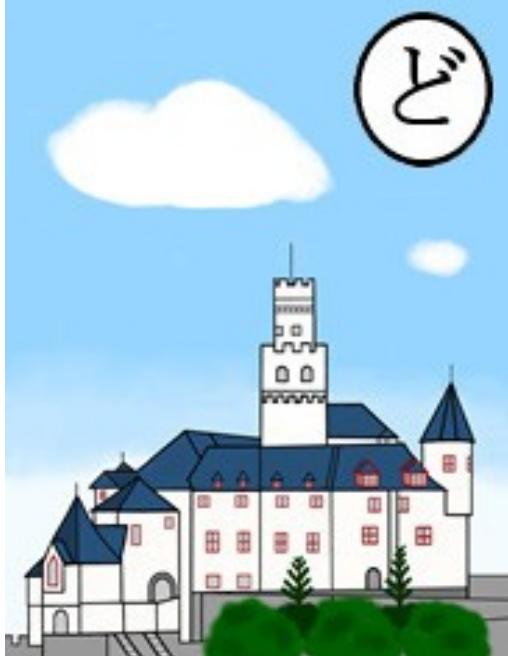
ぞうりはね
宮古でサバと
言つてゐる

サバは、フランス語では「元気?」のことですが、宮古島の方言では「ゴムぞうり」です。

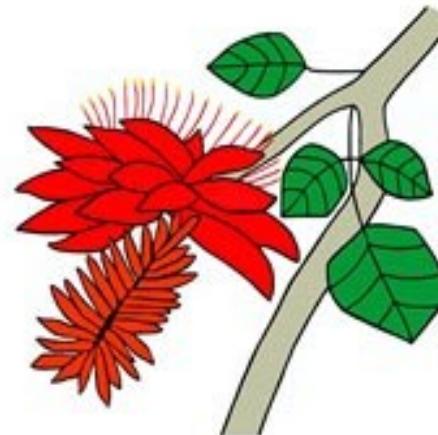
ば



ど



で



だ



「だからよー」と
母さん電話で
あいづちを

「だからよー」は宮古島の方言で、
「そうだよね」という意味です。

デイゴの木

赤いお花が 鮮やかだ

あざ

春から初夏にかけて咲くデイゴの
花は、鮮やかな赤い色をしています。

どぎもぬく

煙の先に ドイツ 城

じよう

「うえのドイツ文化村」は、旧上野村と
ドイツの歴史交流を記念して建てられ
ました。
博愛記念館の外見は、ドイツ
のマルクブルグ城を再現しています。

ばつしらいん
宮古の味だよ
宮古そば

ばつしらいんは、宮古島の方言で
「忘れられない」という意味です。

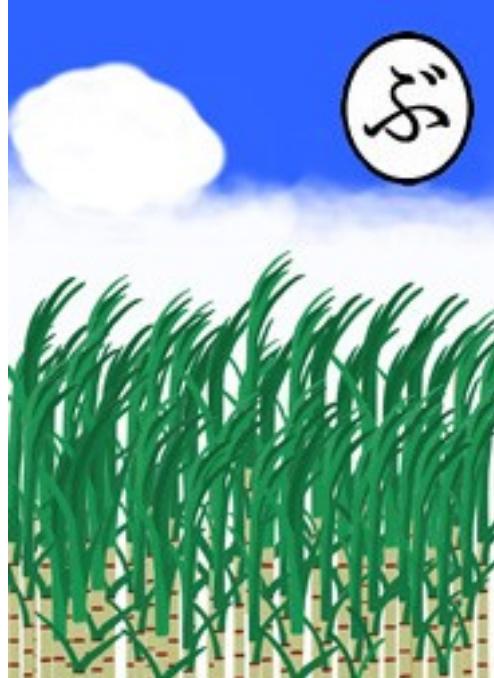
ぼ



べ



ぶ



び



び
び

ススキの穂先で
ほほなでる

ほさき

び
び
「くすぐったい」という意味です。

ブウギの葉

風に吹かれて

夏の午後

ブウギは、宮古島の方言で
「サトウキビ」のことです。

勉強は

ヤラビの時に

やつとこ

べんきょう

ヤラビは、宮古島の方言で
「こども」のことです。

ボウチラは
いたずらばかりで
今日も叱られ

しか
ボウチラは、宮古島の方言で
「いたずらっこ」のことです。

パ～ントウ

しんきよ

どろ

新車も新居も 泥だらけ

宮古島の島尻地区に伝わる伝統行事です。
三人の村人がパ～ントウと呼ばれる妖怪に
ふんし、人や新しい家や車にドロをぬつて
人々の無病息災と村の繁栄を祈ります。



ピンザの子

ピヨンピヨン跳ねる

ぐすくべかいどう

城辺街道

ピンザは、宮古島の方言で「ヤギ」のことです。

「ふからす」と

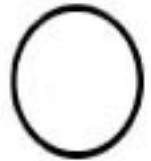
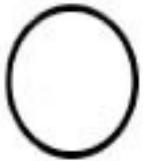
目じりを下げる
ばんたがおばあ

宮古島の方言で、「ふからすは「うれしい」、ばんたがは、「私たちの」という意味です。

ペダルこぐ
くうわもたくまし
ストロングマン

くうわは、宮古島の方言で「ふくらはぎ」のことです。宮古島では毎年4月に、外国や国内から1500人の選手が参加して、トライアスロン大会が開かれます。





ぽつちやりな

しぶらのマード坊

かわいいね

ぼう

しぶらは、富古島の方言で「後ろの
家」のことです。